〔わたしと美術館〕

韓国の仏像をたずねて

大和文華館では、昨年の秋に、特別展「百済・新羅の金銅仏」を開催し、日本にある朝鮮の金銅仏を一堂に会するという我が国始めての試みをいたしました。これが縁で、私は、この夏、思いがけず、韓国の仏像を探訪する機会に恵まれました。今日は、その報告を兼ねて所感を記したいと思います。

ソウルの金浦空港に着いた日の8月16日、午后早々に、大和文華館にもいらしたことのある中央日報の 俞(ユー)さんの計らいで、ソウル市郊外にある湖林美術館の仏像を拝見することができました。有名な金色に輝く二点の菩薩立像の内、一点は7年前の日本での「韓国美術五千年展」に出たことがあります。どちらも統一新羅時代8世紀の作で、高い宝髻・柔和な顔・ひきしまった胴のくびれ・水瓶を持つ手などといった統一新羅菩薩像の典型的な特徴を持っており、総高12cm程の小金銅仏ですが、一体は背面をも立体的に表わして、そこに孔をうがち、もう一体は背面を立体的にでなく扁平に表わして中を空にせずムク（銅が詰っていること）としています。このいずれもが、正面から見た時には思いもよらない表現方法ですが、どちらも統一新羅時代の仏像によく見られるものです。八世紀と言えば、日本の仏像においては、写実を志向して、人体の理想的な姿を仏像に表わそうとした時期でありますから、背面を扁平に処理しているといったものはほとんど見当りませんが、朝鮮では、一度写実をマスターした後にも尚、このような非写実的な背面処理を行っているということになり、このようなことは、日本的発想では思いもよらないことではないでしょうか。

この美術館では、三国時代の古新羅のものとされる弥勒菩薩の半跏小像も重要なもので、これは、中央博物館にある三国時代高句麗のものとされる半跏小像と極めて類似した像容を持っています。更に、思いがけず十体の仏像を拝見することができ、その中に、日本の白鳳時代の誕生仏と非常によく似た衣裳の誕生仏があって興味がそそられました。

この旅行は短期間でありましたので、ソウルだけを目的として、翌日以後は国立中央博物館・湖巌美術館・韓独医薬博物館を回り、中央博物館では、大きな金銅仏を中心に、希望したものをゆっくりと調査させていただきました。その内二体は、片方の肩から先を別鋳して、蟻付けあるいは鋲止めによって本体に取りつけているものです。これらは昨秋当館で展示しました対馬の黒瀬観音堂の如来像が胸部を斜めに鋳継いでいることと関連させて是非見ておきたかったものです。しかし、黒瀬の像のような鋳造法は韓国にも今のところ例はないようです。肩から先は別鋳した後に本体に取りつける方が簡単ですが、黒瀬の像のような造り方はまことに理解に苦しみます。この中央博物館の諸像を見ますと、矢張り、統一新羅時代の盛期に、立体感に溢れたものと、意識的に扁平に表現しているものとが同居していることを痛感しました。

前もって日本から頼んでおいたにもかかわらず、ソウルの個人コレクションは拝見することが難しいことが分り、その時間を慶州に当てることにしました。新羅の都であり、歴史的・風土的な共通点から奈良市と姉妹都市であり、奈良市のふる里とも言える慶州市は、今回諦めていたところであったので、思いがけず行けることとなり内心小踊りして喜んだのです。ソウルから慶州までは片道四時間半の特急列車セマウル号が、一日に二本しか出ません。

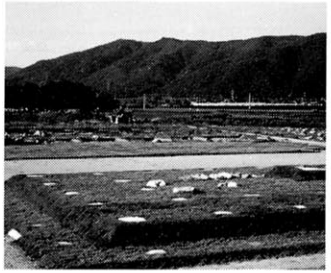
新装の慶州博物館では、日本に留学したことのある李さんが迎えて下さり、館内を案内して下さいました。展示中の仏像については、この時の約束通り、金先生がわざわざ撮影なさり、そのフイルムを送って下さったのは本当に有難いことでした。有名な栢栗寺の薬師如来像や三花嶺の石造三尊仏・奉化出土の石造半跏像などの巨像を目の当りにして胸をトキメカせました。また、思いがけなく、金先生らに統一新羅の大寺・皇竜寺址の発掘現場を案内していただき、出土した仏像の何点かを作業場で見せていただいたのもうれしいことでした。寺址には金堂の須弥壇址に、丈六三尊仏が置かれていた円形の石の三座が千年余経た今も残されており、それは『三国遺事』の記事通りであるというのにも驚かされました。そのほかに、〝石の文化〟を代表する仏国寺の建物や石窟庵の如来像、堀仏寺址の石仏、当時の最も古い城址である半月城址や、宮殿の庭に設けられて現在復原されている雁鴨池なども案内していただきました。その道々、田園や木立ちの間に古墳を眺めていますと、自然に奈良の明日香村附近の風景が思い出されて感無量になりました。

今回はわずか十日程の短期間の旅行でしたが、多くの人々のお世話になり、ソウルと慶州の主な仏像を調査することができ、収穫の多い旅であったと、ソウルへの夜の列車の中で一人感慨にふけりました。

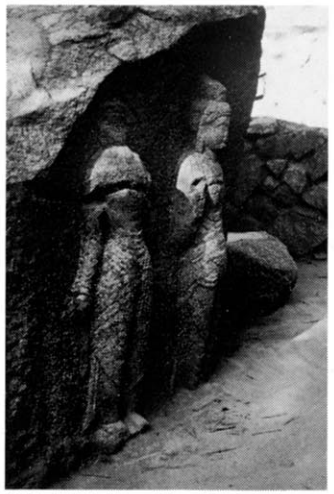
（村田靖子）

雁鴨池　慶州

皇竜寺址　慶州



金銅薬師如来立像　統一新羅時代
国立中央博物館蔵



堀仏寺址石仏　統一新羅時代

季刊 美のたより No.65
昭和58年 11月 18日
発行　大和文華館

Copyright ©2007 The Museum Yamatobunkakan. All Rights Reserved.